アグリビジネス学科同窓新聞

－発　行－
秋田県南秋田郡大潟村字南2－2
秋田県立大学生物資源科学部
アグリビジネス学科
TEL 0185－45－2026㈹
印刷：㈱八郎潟印刷
TEL 018－875－4005

アグリビジネス学科の近況

アグリビジネス学科長　鵜川洋樹

アグリビジネス学科同窓生の皆さん、お元気でご活躍のことと思います。２０１９年４月に前任の津田渉先生から学科長を引き継いだ鵜川洋樹です。

２０１９年度は秋田県立大学の20周年記念イベントが開催された年になりました。講演会や対談、新聞記事などでご覧になった方も多かったのではないでしょうか。アグリビジネス学科は７年遅れで設置されましたので、13周年にあたります。２０１９年３月に卒業した同窓生が10期生になりました。したがって、この10年間で約４００名の同窓生が社会に巣立ったことになります。同窓生が様々な分野で活躍され、本学科の認知度も年々高まってきているように思います。そのため、４年生の就職活動は幅が広がるとともに順調で、就職率１００％を堅持しています。皆さまのご活躍に感謝する次第です。また、近年は大学院への進学者も増加し、２０１８年度は５名が進学し、２０１９年度も４名が本学の大学院へ進学する予定です。

アグリビジネス学科をめぐる最近の動向として、講義科目の新設があります。「食の６次産業化プロデューサー（食プロ）」という国家検定が創設され、その認定資格を取得できる講義が自由科目として３科目新設されました。生物資源科学部の学生を対象とする夏季の集中講義として実施されています。その中の「レベル１」は１年生を対象とする科目で、２０１９年度の受講者は43名、うち23名がアグリビジネス学科で、社会人も１名いました。「レベル１」の主担当は上田先生で、アグリビジネス学科の多くの先生が分担しています。同窓生の皆さまの中でも「食プロ」に関心がありましたら、受講してみてください。その他にも「あきた地域学」と「あきた地域学アドバンスト」が新設されています。「あきた地域学」は１年生の必修科目です。これらの科目は秋田のことをより深く理解し、ひいては卒業後も秋田県で就業する学生を増やすことを目論むもので、荒樋先生や酒井先生が担当しています。また、「起業力」や「農工連携」に関する科目の新設も検討されるなど、講義科目の拡充が進んでいます。一方、プロジェクト教育の方も進化しています。３年次の演習・実験・実習と４年次の卒業研究は変わりませんが、このセットを10回経験したことから、それぞれのプロジェクトにおける演習内容が洗練され、卒業研究の成果が着実に蓄積されてきました。その結果、卒業研究は年々深化・高度化し、先に述べた大学院進学の伸びに結びついているものと信じています。卒論発表会のプレゼンも上達していますので、ご都合が合えば、ご出席いただき、アドバイスなどをいただければと思います。

この13年間で学科教員の異動が多くあり、その度に欠員が生じていましたが、２０１９年度は新任教員として北本尚子准教授（果樹栽培学）が着任し、数年ぶりにフルメンバーになりました。フィールド教育研究センターの教員も専任の４人体制です。同窓生の皆さまには、大潟キャンパスにお立ち寄りいただき、近況などお知らせいただけるとありがたいです。同窓生の活躍は教員にとって最大の活力源です。

同窓生からの近況報告

２期

農業政策研究プロジェクト
伊藤　佑介

２期生の伊藤佑介と申します。この度、同窓新聞に紙面を割いていただく機会を得ましたので、近況等を報告させていただきます。

私は大学では旧６プロ（農業政策研究プロジェクト、現政経プロ）に所属し、卒業研究ではＪＡに関わる研究をしていたこともあり、卒業後はＪＡ秋田やまもとに入組しました。現在は営農指導員として菌床椎茸を担当しています。具体的な業務内容としては、農家の圃場を訪問巡回して作物の生育状況確認・栽培技術指導、経営収支管理・指導等を行っています。菌床椎茸生産者は現在11名と他の作物に比べ人数は少ないものの、販売額は当ＪＡの青果物の中では最大の作物であることから、その担当を任されたことにプレッシャーと共にやりがいも感じながら日々の業務に励んでいます。

担当している菌床椎茸も含め、現在農家の懸念の一つが労働力不足と経営者の高齢化です。スマート農業など農作業の機械化は進んでいるものの、まだまだ稲作以外では人の手が入らなければ農作物生産は行えません。ですが求人などを出しても中々応募もなく、来ても経営者よりも高齢の場合などもあるのが現状です。雇用に有用な農業政策や、ＪＡからの支援が農家から求められますが、その期待に満足に応えられていないことを歯がゆく感じています。しかし、家が農家でもない私が今こうして農業に携わり、農業に関することで頭を悩ますことができるのも、大学で農業・ＪＡに関わる研究を行っていたおかげだと思っています。

卒業してから大学の仲間や先生方と会う機会もほとんどなくなりましたが、いつかまた皆様と会えることを楽しみに、この先もＪＡ職員としての責務を果たすべく精進して参ります。

４期

アグリビジネスマネジメントプロジェクト
夏井　朋世
（旧姓：伊藤）

私は、新卒で入社した化粧品会社に現在も勤めています。就職をきっかけに、慣れ親しんだ地元秋田を離れ、東京に出ましたが、一昨年、異動で秋田県民にカムバックしました！会社では、化粧品原料となる植物の研究と栽培を担当し、秋田県のきれいな水と壮大な自然の中で働いています。日々忙しくとも、充実した日々を送っております。今年、会社が県内にワイナリーを建設予定で、私はブドウの栽培と醸造を担当することになりました。元々私は、まごうことなき日本酒派で、ワインは未知の飲み物状態でしたが、今や、そのフルーティで複雑な味にすっかり魅了されています。今後も「こだわりのあるものづくりをしたい」という初心を忘れず、秋田からいいものを生みだせるよう、新たなことにも果敢に挑戦したいと思います。

さて、プライベートでは無事30歳を迎え、昨年結婚をしました。結婚といえば思い出すのがこのエピソード…少し語らせてください。大学時代「農業・農村を元気にし隊」（同期と立上げた援農サークル、今もあるのかな？）に所属していました。活動で潟上市の田植えに行った時、参加者の住職の方が、ジャージに書かれていた私のフルネームを見て「あなたは29歳までに結婚しないと事故にあう」と言うではないですか…！数年後もその言葉が色濃く残っていて、30歳が近づくにつれてドキドキしていましたが、なんと30歳の誕生日の２週間前に無事（？）プロポーズを受け、平穏で幸せに暮らしております。

＊同窓生からの近況報告は2面に続きます。

重要なお知らせ　－拡散のお願い－

アグリビジネス学科同窓新聞は本号からはWeb掲載のみとなっています。同窓の仲間たちに「同窓新聞をＷｅｂで閲覧すること」を拡散してください。
アクセス方法「秋田県立大学ＨＰ→アグリビジネス学科ＨＰ→アグリビジネス学科運営ページ→キャリア・就職→同窓新聞」。
なお、印刷された同窓新聞の配達を希望される方は、kanda@akita-pu.ac.jpまでご連絡ください。

〈次号は令和３年１月頃にWeb公開予定です〉

各プロジェクトの近況

7期 園芸作経営プロジェクト　中田　将之

アグリビジネス学科７期生の中田と申します。

私が大学を卒業して４年が経過しようとしております。卒業当時の私自身に戻って今の自分を見れば、「朝ちゃんと起きて、平日毎日出社する」という今では当たり前のことを続けていることが信じられない思いです。さらには「どの面をして同窓新聞を書いているんだ」とも思うかもしれません。同期の人たちも、教授陣も同じ様に考えているかもしれません。そんな私に同窓新聞に紙面を割いていただく機会を得て誠にありがとうございます。

さて、不真面目な学生だった私は今、渡辺パイプ株式会社のグリーン事業部という会社で働かせていただいています。農業用温室のメーカーですが、その他にも肥料やマルチなどの資材や水耕栽培の設備など農業に関わる商品を多く扱っております。取扱量も多く、ハウスを建てた後のお客様の満足そうな顔を見ると誇らしく感じます。昔は何とも思わなかったパイプハウスが新しくきれいなものや強風に耐えたハウスなどを見るとカッコよく感じてしまう謎な美的感覚も備わりました。

社会人としてどう仕事を進めていくことが正解かは答えがまだ出ていないですが、大学で知り合ったツテや学んだことを生かし、仕事でも学び経験し日々精進しながら回答を見つけていきたいと思います。

日本だけに留まらず、生の根幹となる農業をより活性化していくという大それたことはできませんが少しでも役に立てるようこれからも頑張ります。最後に、資材などのお悩み・ご相談がありましたら一報いただけたらと存じます。

8期 大規模農業経営プロジェクト　小足　限哉

アグリビジネス学科８期生の小足です。出身は北海道の東神楽町という旭川市近郊の町です。大学では大規模農業経営プロジェクト（現先進作物生産技術開発プロジェクト）で水稲について研究していました。

大学卒業後は海外農業研修としてニュージーランドに行きました。日本では触れ合えないような大規模な生産現場で働きました。主な研修内容としては、イチゴの定植、植林工場、果樹園で働きました。中国、マレーシア、韓国、ベトナムから出稼ぎに来ている人が多く、他にもイギリス、スペイン、アルゼンチンなど様々な国籍の人と関わりながらの仕事で、貴重な経験になりました。また、仕事以外でもホームパーティーに参加させてもらったり、旅行に一緒に行ったりと多くの国際交流は一生の思い出になりました。

帰国後は実家に就農しました。経営規模は水稲約20ha、小麦３ha、野菜１haです。米はゆめぴりか、ななつぼしを主に作っています。野菜は水菜、小松菜、小ネギ（万能ネギ）です。私と両親、パート３人で農業をしています。水稲は機械化が進んでいて、籾播きと田植え以外はだいたい一人で管理しています。水稲に関しては今後さらに機械化が進み人手は必要なくなる予定です。一方、野菜の栽培は手作業に頼ることが多く、機械化を進めていく予定です。まだ就農して２年目ですが、新しくできる仕事を増やしていき、経営規模の拡大を目標に頑張っています。北海道へお越しの際は、ご一報をお願いします。

10期 家畜資源利用推進プロジェクト　布谷　未帆

10期生の布谷未帆と申します。この度、同窓新聞の紙面を割いて頂く機会を得ましたので、近況等を報告したいと思います。

現在、私は秋田県立大学のフィールド教育研究センターに勤務しております。センターでは畜産班に所属し、技能スタッフとして日々家畜と接しております。動物を扱う仕事なので肉体労働も多く、仕事を始めたころは筋肉痛に襲われました。また、大学のプロジェクト実習では乗ったことがない農業機械や慣れない運転で大変ではありますが、毎日が楽しく日々が充実しています。

同窓新聞の原稿依頼があった時、私は家畜（牛）人工授精師の資格取得のために、秋田県畜産試験場で約一か月間の講習を受けていました。そこでは、畜産関係の農家さんや獣医さん、試験場や家畜保健衛生所の職員さんなどたくさんの方とお話する機会に恵まれ、様々なお話を聞くことができ、良い経験になりました。

次に、学生時代を振り返ってみると、たくさんのことがあった４年間だったと思います。楽しかったこと、苦労したこととたくさん思い出しますが、特に記憶に残っているのは４年次の卒業研究です。卒業研究は「卵巣穿刺刺激が未成熟卵胞の発育に及ぼす影響」というテーマのもと研究を行いました。プロジェクト実習の時から直腸検査で子宮頚管を掴むことができなかった私はなかなかうまくいかず本当にできるようになるのか不安でした。しかし、卒論の担当だった横尾先生をはじめ、フィールド教育研究センター畜産班の技能スタッフさんに助けられながらも最後まで行うことができました。この時の経験が今でも仕事でも活かされています。

そして最後に、母校で働くこと、お世話になった先生方とともに働けることはとても幸せなことだと思います。まだまだ社会人になりたてで未熟者ではありますが今後も頑張っていきたいと思います。

先進作物生産技術開発プロジェクト（旧大規模農業経営プロジェクト）

卒業生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。今年度の「作物プロ」のメンバーは、３年生８名、４年生９名、大学院生（Ｍ２）１名、教員５名です。４月には、例年のとおり、フィールド教育研究センターやゼミ室などで、３年生は実習・演習・実験、４年生はプロジェクト卒業研究をスタートさせました。７月の地域農業研修では岩手県に出かけ、製菓（南部煎餅）工場を見学し、また、水稲やソバ栽培に取り組む農業法人を訪問しました。座敷童が出るという宿で学生の皆さんは、夜更けまで語り合ったようです。

現在（12月）、３年次プロジェクト報告会とプロジェクト卒業研究の取り纏めの時期となっています。卒業研究のテーマは、作物の栽培や育種、雑草の生態や制御、マガモ農法、農業機械や情報の利用に関するものなど、多様です。卒業研究検討会も回を重ね、研究の要旨が明瞭なものになっています。

さて、卒業生の皆さんは体を動かしていますか？こちらではプロジェクト対抗バドミントン大会があり、楽しく汗を流しました。大学の近くに来られる機会がありましたら、立ち寄って近況をお教えください。益々のご活躍を、お祈りします！

露崎　浩　記

アグリビジネス学科教員（令和元年夏）

後列左から▼伊藤、酒井、津田、山本、北本、横尾、（枠内：吉田、近藤）
中列▼永吉、佐藤、赤堀、上田、林、永澤
前列▼岡田、増本、露崎、鵜川、荒樋、高津、神田

先進園芸技術開発プロジェクト（旧園芸作経営プロジェクト）

今年度の園芸プロのニュース第１位は、果樹担当教員として北本尚子先生が赴任されたことです。北本先生のプロフィールは新任教員紹介の欄をご覧ください。正志先生のご逝去以来、一年半ぶりに、教員は吉田、神田、今西、北本の４人フル体制となりました。

ニュース第２位は、園芸プロ初の大学院生（松下渓君）が誕生したことです。ゼミや中間発表等での質疑の切り込み隊長として、学部学生を引っ張ってくれています。また、客員研究員の林智仁さんも昨年に引き続きプロジェクトの一員で、学生と教員との潤滑油的存在です。

ニュース第３位は、学生の居室を１か所に集結したことです。これまで、３チームの居室は別々でしたが、果樹研究室を３チーム合同居室に模様替えしました。客員研究員１名、院生１名、４年生８名、３年生８名の総勢18人の住人からなる賑やかな居室となっています。

さて、昨年度に園芸プロの同窓会を開催して以来、「今年度は同窓会をやらないのですか？」「次回はいつですか？」との質問を聞くのですが、次回については、同窓生有志が企画してくれると嬉しいです。是非よろしくお願いします。

神田　啓臣　記

家畜資源利用推進プロジェクト（旧家畜資源循環農業経営プロジェクト）

今年度は着任して３年目の伊藤が担当します。今年度の畜産プロジェクトは横尾先生、渡邊先生、佐藤先生、伊藤の４人の教員と３年生６名（女子学生６名）、４年生６名（女子学生５名＋男子学生１名）、修士１年２名（男子学生１名＋女子学生１名）でプロジェクト活動を進めてきました。年々女子学生の割合が増加している本プロジェクトですが、なぜ女子学生が集まるのは教員達の間でも謎となっております。昨年度、秋田県畜産試験場から本学へ着任しました渡邊潤先生のおかげで、畜産プロと秋田県畜産試験場との関係がこれまでよりも深まり、畜産試験場職員と連携した実習も増えました。また、今年度は学生１名が秋田県庁の畜産振興課へ就職が決まるなど、秋田の未来を担う人材を輩出できる環境になってきているのではないかと実感しています。ＯＢ／ＯＧの皆さんは寄る機会が少ないかと思いますが、近くに来た際は是非立ち寄ってください。もちろんメールでの近況報告等も大歓迎ですので、ふと思い出した時はご連絡ください。畜産プロ教員一同お待ちしております。

伊藤　謙　記

左から▼保田、今西、西村、渡邊、矢治

フィールド教育研究センター教員（令和元年夏）

次世代農業基盤創成プロジェクト（旧生産環境プロジェクト）

今年度の次世代農業基盤創成プロジェクトは、増本教授、近藤准教授、永吉の３名体制で運営しています。現在、プロジェクトに所属する学部生および院生は、修士２年生１名（社会人）、修士１年生１名、４年生10名、３年生６名です。４年生の進路内訳は、本学大学院進学１名、国家公務員１名、地方公務員４名、農業土木コンサルタント２名、種鶏・孵化関連企業１名です。１・２年生の間では「公務員になるのなら基盤プロに」との噂が流れているそうで、３年生のプロジェクト配属当初から公務員を第一志望として目指す専攻生が増えている状況です。

さて、本プロジェクトのメンバーが関係する大きなイベントとして、11月12日、13日に農業農村工学会東北支部大会が秋田市内で開催され、我々教員に加え、プロジェクトに所属する学部生、大学院生総出で大会の運営に携わりました。大会初日には、昨年度の大会で優秀な発表を行った会員を表彰するためのイベントがあり、アグリ10期卒業生の大西将高さんが農業農村工学会東北支部（奨励）賞を授与されました。卒業生の皆さんの今後のご活躍に期待しております。

永吉　武志　記

地域ビジネス革新プロジェクト（旧アグリビジネスマネジメントプロジェクト）

ここ３年くらい、３年生の活動や４年生の卒論で、地域の食と農をむすびつける、あるいは秋田の農産物を素材に商品を開発して広く流通させることに熱心な飲食業や流通業、食品企業の経営者の方にお話をうかがう機会が増えました。いずれも30歳代、40歳前後の方が多く、秋田のビジネスも変わりつつあると感じます。

そのなかで１つの企業を紹介すれば、ご存知の方もいるかもしれませんが、秋田の食材にこだわり、お土産品を製造販売している「鼎庵（ていあん）」（鼎家（かなえや）さんがあります。「稲庭かりんとう」、「泡雪ふわり」（手揚げせんべい）とヒットを飛ばし、新たに手焼きせんべいも発売しています。手がけているお土産は２００種以上だそうです。素材と味、そしてパッケージにこだわり、手に取ってみたくなる、食べてみたくなる商品が豊富です。意欲的かつユニークな企業です。

教員については、メンバーには変わりありませんが、林美俊先生が２０２０年４月から准教授に昇任されることが決まりました。学生とゼミのことを少し。３・４年生と院生の合同ゼミなどでは、大学院生の工藤君がいろいろと学部生の相談に乗ってくれて、ティーチングアシスタントの役割を果たしてくれています。頼もしい限りです。今後も大学院生が育っていってくれれば、と心から思います。

津田　渉　記

政策・経営マネジメントプロジェクト（旧農業政策研究プロジェクト）

今号のプロジェクト近況は、赤堀が担当します。令和元年度は、３年生６名、４年生７名、教員５名で活動しています。教員の異動はありません。私も今年度でプロジェクト３年目となりましたが、やってくる学生の個性はまさに十人十色、毎年新鮮な気持ちで活動しています。

さて、この１年で特に注目すべき出来事として、令和元年度前期の３年生の活動をご紹介します。今年前期の現地調査演習では、大潟村における自動操舵田植機の導入をテーマに、実証農家に対して自動操舵田植機の導入条件等に関する聞き取り調査を実施しました。さらに、有志が結果を取りまとめ直し、学会発表まで行いました。非常に濃い内容の演習になったのでは と思います。

そのほか、当プロジェクトでは今後、３年生と４年生の交流機会を増やしていくことを計画しています。これを通じてプロジェクトがさらに活気づいていくといいなあと思っています。さらに、２名の大学院進学が決まりました。来年度は３年生、４年生に加えて博士前期課程１年生もいることとなり、一層にぎやかになりそうです。

赤堀　弘和　記

キャリア情報センター 特集

今号では、履歴書添削や面接練習等々、就職活動でお世話になったキャリア情報センターを特集します。

チームリーダー　野﨑　敏雅

同窓生のみなさん、お元気でしょうか。キャリア情報センター、野﨑と申します。大潟キャンパスには平成23年４月から３年間、お世話になりました。その間、ＳＰＩ対策ゼミや学科の面接対策等をお手伝いさせて頂きました。私、前職で専門学校の教員をしておりましたが、特に面接練習時、専門学校の学生とは比較にならないぐらい上手くこなしていたのが強く印象残っています。日頃の先生方のご指導の賜物ですね。また、大潟キャンパスに勤務していた頃は、学生寮の担当もしていました。当時の学生寮は暖房システムの老朽化による漏水が日常的にあり、大変苦労した記憶が残っております。ご迷惑をおかけした元寮生のみなさん、ごめんなさいでした。

さて、キャリア情報センターの近況ということがテーマでしたので、近況について述べたいと思います。ご存知のとおり、ここ何年かは完全な〝売り手市場〟で、10年前と比べれば随分選択肢が増えたと思います。ただ、その分情報量も膨大となり、そういった面で学生さん達は苦労しているようです。実際にそうした相談もあります。求人がない頃と比べれば、贅沢な悩みですね。また、最近はキャリア情報センターにてＡターンの斡旋なども始めています。決して、転職を勧める訳ではないのですが（私、転職で色々苦労しましたので）、秋田県内に転職したいなぁ、と思っている方は是非ご利用下さい。大学のホームページから、アクセス可能です。

▲簾内、野﨑　近影

キャリアカウンセラー　簾内　聖子

アグリの卒業生の皆さんごぶさたしています。キャリア情報センターの簾内（すのうち）です。

「えっ？就職情報センターじゃないの？」と思った方、数年前、キャリア情報センターになりました。ちなみに、「就職ガイダンス」も「キャリアガイダンス」に変わったんですよ。時代の流れですね。

さて、私がアグリの皆さんといろいろお話をしていたのは、一期生から三期生まで、七期生から現在の十二期生までです。ご存知の方もいらっしゃいますが、途中、本荘キャンパスに異動になりました。

本荘まで片道一時間、毎日車を運転しながら、何度、大潟キャンパスの景色を思い出したことでしょう。四年ぶりに大潟キャンパスのキャリア情報室の扉を開けたとき、「帰ってきたな…」としみじみ思いました。

懐かしい先生方、蘇る卒業生の皆さんとの思い出…。たくさんの思い出の中で、一番印象に残っているのは、一期生の皆さん！謝恩会に招待してくれました。あのときのゆずの「夏色」！ギターの音色とあの歌声―忘れられない思い出です。

時々、松風祭や大潟キャンパスのキャリア情報室に卒業生が訪ねてきてくれます。一瞬で、あの頃に戻れるんですよね。中には、お子さんと一緒に来てくれたり…。月日が経つのは早いな…と思いつつ、成長した皆さんの笑顔に、たくさんの元気をもらっています。

機会があったらぜひ、遊びに来てくださいね。お待ちしています。

在校生の近況

今号では、大学院と学部それぞれの１年生に近況報告をしてもらいました。

カワシンジュガイの採捕様子

大学院修士課程１年　入　江　倭　斗

初めまして同窓生の皆さん。今年度から大学院に進学しました入江倭斗です。紙面をお借りしまして、近況報告いたします。私は現在、次世代農業基盤創成プロジェクト（旧４プロ）の永吉武志准教授のもとで修士論文の指導を受けています。修士論文のテーマは「カワシンジュガイ科貝類の水理特性に関する研究」で、河川や農業用の水路などに生息している絶滅危惧種である、カワシンジュガイとコガタカワシンジュガイの保全を目的として、水理実験を行っています。具体的には、二枚貝の個体数が減少する要因の一つである流れの速さに焦点を当てて、貝が流され始める流速を流下実験で測定し、その流速と、貝の長さや厚さ、重さなどにどのような関係があるのか、その関係より、カワシンジュガイ科貝類が生息できるような水路やワンドをどのように設計すればよいのかを研究しています。この研究の理解を深めるために、現在、流体力学を勉強しています。いままで触れてこなかった分野なので、苦労することもありますが、研究に活かしていけるように努めていきたいです。

また、研究以外にも、大学院の講義に加え、ＴＡ（ティーチングアシスタント）、論文などの作文技術の向上を目的としたゼミと、多忙ですが、大変充実した院生生活を過ごしております。これからも、自身のスキルアップを目標に、日々研鑽を重ねていきたいです。

アグリビジネス学科１年　田　口　世　人

アグリビジネス学科に入学して１年が経とうとしています。２セメスターに入り、１年生だれ一人欠けることなくそれぞれの分野、役割で活動しています。私達14期の入学してからの近状報告と思い出を踏まえて話していくこととします。

ふと思い起こして印象深いのが松風祭での「アグリカフェ」です。「アグリカフェ」の運営は、私達14期が一丸になった初めてのことでしたが、先輩方から引き継いだ運営の数々の資料や仮装衣装は大変参考になり、仮装衣装は「アグリカフェ」を華やかに飾りました。この衣装達は、これからも大切に保存していきたいと思います。２日間の松風祭での「アグリカフェ」は、好評をいただくことができ、模擬店部門での売り上げ第３位を獲得することができました。これは、アグリビジネス学科１年生全員と協力いただいた企業様、先生方のお蔭があったからこそです。そして、「アグリカフェ」を成し遂げたという結果は、私達の自信となり、14期それぞれのつながりを深めることにつながりました。

さて、本学には、魅力的なサークルや部が沢山あり、大学生活をより一層華やかに彩ってくれています。先輩方やＯＢ、ＯＧの方々と交流できることもその魅力の１つです。そんな、サークルや部の中でも私が大学に入学し最も惹かれたのが「竿燈会」です。入学早々に入会の届けを出し、晴れて竿燈会の一員になりました。重い“竿”を操る先輩方の勇ましい姿と竿燈に掛ける熱い想いを目の当たりにし、そんな先輩方と同じ世界を見てみたいと思ったのがキッカケでした。そして、初めて参加した竿燈祭りでは様々なドラマがあり、祭りの４日間は目まぐるしく過ぎ去りました。中でも印象深かったのは、最後の祭りに望む４年生の迫真たる演技、鍛え上げてきた技を競う妙技会へ望む先輩方の姿、そして何より、アグリビジネス学科のみんなが演技を見に来てくれたこと。私は、本当に最高の仲間に巡り会えたと思いました。秋田県立大学アグリビジネス学科に入学し、心から良かったと思える瞬間に出会えました。私だけに限らず、アグリビジネス学科14期のみんながそんな瞬間に出会い、これからもアグリビジネス学科で良かったと思えるクラスでありたいと思っています。

それでも、これから先、色々な壁にぶつかることがあるかと思います。そんな時は、アグリビジネス学科で出会った頼れる仲間たちと共に乗り越え、そして、先輩方の築いてきた礎を引継ぎ一人ひとりが目指すべき未来に向かって一歩ずつ成長していきたいと思います。アグリビジネス学科で出会った仲間たちに感謝し、先輩方の一層の発展とご多幸をお祈りし近状報告とさせていただきます。

竿燈祭り（写っている人物は全員アグリ１年）

お知らせ

■拡散のお願い
ー同窓新聞はＷｅｂで閲覧してくださいー

１面でもお知らせしたように、本号からはＷｅｂ掲載のみとなり、「秋田県立大学ＨＰ→アグリビジネス学科ＨＰ→アグリビジネス学科運営ページ→キャリア・就職→同窓新聞」で閲覧してください。

これまで同窓新聞を皆さんの実家宛に郵送してきましたが、「届いていない」という人が多いので、同窓の仲間達に「同窓新聞をＷｅｂで閲覧する」ことを拡散してください。

なお、次号は令和３年１月頃にＷｅｂ公開予定です。

新任教員紹介

この１年間に大潟キャンパスに着任された先生の紹介欄です。

北本（きたもと）　尚子（なおこ）　先生

２０１９年４月から佐藤正志先生の後任として着任した北本尚子と申します。園芸プロに所属し、果樹栽培学などを担当しています。専門は植物育種学で、リンゴの耐病性やハクサイの開花期の遺伝解析を行ってきました。本校では、遺伝子情報を活用し、機械化・省力化に対応した果樹の栽培体系の確立に取り組みます。